

「若手の会」のページ

若手の会第4回リトリート開催報告

JASTS 若手の会実行委員 八木徹哉（ハウス食品グループ本社株式会社）

はじめに

2021年11月に日本味と匂学会の若手の会（JASTS 若手の会）が発足して以来、4回目の合宿形式の交流会を開催いたしました。この会では、年に一度の大会以外に、若手会員・学生会員同士が交流・情報交換する機会を提供しています。若手研究者（ここではPIを除く、助教・研究員・博士研究員・学生・あるいは同年代の企業研究者）が交流を深め、研究面だけでなく、キャリアパスの相談の場、先輩研究者からのアドバイス等をもらえるような場をつくり、日本味と匂学会の更なる発展、また化学感覚研究の活性化に貢献できるよう活動しています。昨年度から本交流会を若手の会の「リトリート」と位置づけ、今年も開催に向けて、1年ほど前から実行委員メンバーで準備を進めました。

本稿では、リトリートの開催報告とその様子、また参加者からの感想を紹介させていただきます。



若手の会第4回リトリート参加者

若手の会第4回リトリート開催報告

日本味と匂学会第59回大会に先立ち、9月7日から1泊2日の合宿形式で、吹田市にありますパナソニックリゾート大阪にてJASTS 若手の会第4回リトリートを開催しました。パナソニックリゾート大阪は、大阪モノレール宇野辺駅から、徒歩で10分ほどの距離にあり、敷地内にはテニスコートやプールなども併設されているリゾート施設です。本大会の会場である大阪大学会館まで1時間もおかからない距離にあるため、アクセスが比較的良く、宿泊施設、ミーティングルームも整備されており、参加者同士の交流には最適のホテルと考え、選定しました。

今回のリトリートには招待講演として大阪大学の山下敦子先生をお迎えし、実行委員を含めて計26名が参加しました。今年度もアカデミア、学生、企業研究者、医療従事者など、多彩なバックグラウンドをもつ方々が参加され、本会の趣旨どおりの会となりました。また今回は初参加の方だけでなく、久しぶりに参加された方や、前回の参加をきっかけにご縁が生まれ、立場が変わって再度参加された方もいらっしゃいました。リピーターとして参加される方も少しずつ増えており、参加者の方々がまた次回も参加したいと感じられる会となっていることを実感しています。

第4回リトリートのプログラムでは、①自己紹介とポスターセッション、②山下先生の招待講演、③実行委員によるトークセッション、④夕食と交流会、⑤万博記念公園散策の5つを主たるイベントとして企画しました。

9月にもかわらず、当日の大阪は35℃に迫る猛烈な暑さで、ホテルまで歩いてきた参加者の中には汗をかきながら到着する方もいらっしゃいました。そんな中、1つ目の自己紹介とポスターセッションからリトリートはスタートしました。初めは皆さん緊張しながら自身の紹介やリトリートに参加した思い等を話していましたが、ポスターセッションが始まると、各々すぐに興味のある演題に集まり、自由活発な議論が始まりました。毎年の様子ではあるのですが、自身の研究ありきでコミュニケーションが始まる辺りは、さすが研究者の性だなと感じてしまいます。

このポスターセッションは、実行委員としては本会に向けたポスター発表の“練習の場”として利用してもらう意図もあります。結果として昨年までに引き続き、今年もリトリート参加者から、本大会で優秀発表賞を受賞される方が選出されたことは大変喜ばしい限りです。また今年から、より活発にポスター発表、議論をしていただけるよう、若手の会リトリートでもポスター賞を設定しました。初日のプログラム終了後に一人一票、最も良かったと思う発表に投票してもらい、翌日に結果発表、表彰式を行いました。初めての試みでしたが、好評の声もいただいております。実行委員としても手ごたえを感じています。ポスターセッションは毎年、リトリートの中でも特に有意義だったとお声をいただくセッションですので、今後も継続しつつ、よりよいものにしていきたいと考えております。



ポスターセッション

自己紹介とポスターセッションの次は、大阪大学の山下先生の招待講演です。構造生物学の歴史から、化学感覚受容体の構造解析の難しさや面白さを研究実例も交えてご講演いただきました。私自身、あまりなじみのない分野でもありましたので、大変興味深く、拝聴しました。質疑応答でも時間ぎりぎりまで絶えず質問の手が上がり、また講演後も質問に行く参加者の姿が見られ、セッションとしても一番の盛り上がりを見せました。

3つめのセッションは実行委員によるトークセッションです。実行委員より田窪詠子氏（株式会社ACRO）、郷田竜生氏（味の素株式会社）、尾関峻輔氏（株式会社ゼンショーホールディングス）が講師として、それぞれ講演を行いました。一括りに企業の研究員と言っても、会社や立場が変われば研究内容や目指すべきものが変わります。同じ企業研究員として新しい視点や共感できる部分も多く、大変勉強になりました。アカデミアだけでなく、企業など様々な視点のお話が聞けるのも、多彩なバックグラウンドを持つ方々が参加するリトリートの強みであると感じました。



実行委員による講演

実行委員によるトークセッションの後、全体で写真撮影を行い、4つ目の夕食と交流会へと移りました。アカデミア、学生、企業、臨床医など、背景が様々な方が入り混じって席に座り、研究内容だけでなく、それぞれの立場での研究の難しさや楽しさ、キャリアや今後について等を話す場面も見られました。ふだんなかなか話すことができない研究室外の方と交流することで、とても有意義な時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。翌日が休館日ということもあり、夕食後はポスターを撤収し、入浴、そして各々部屋でゆっくり過ごすことで初日を終わりました。



夕食と交流会

2日目、朝食後に集合し、昨日投票したポスター賞の発表を行いました。ポスター発表された方から最優秀賞1名、優秀賞4名を選出し、受賞者には後日、賞状をお送りしました。

ポスター賞の発表後は、今年もレクリエーションとして万博記念公園に向かいました。今年は約50年ぶりに大阪で万博が開催されています。半世紀以上前にも、同じ大阪で万博が開催されていたと思うと、感慨深く感じた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。万博公園に到着後、皆で記念撮影を行い、そこで解散となりました。



万博公園にて記念撮影

この後、参加者は、本会会場のある大阪大学会館に移動し、午後からの本会に臨みました。このように今年も5つのイベントを開催し、大きなトラブルもなく無事リトリートを開催することが出来ました。リトリートを通して交流したことで、知識と知り合いが増え、高いモチベーションの状態で本会にのぞめたのではないかと思います。

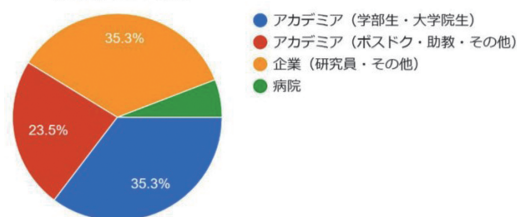
おわりに

過去の反省を踏まえた4度目のリトリート開催となりました。気軽に話しやすい雰囲気は維持しつつ、初めて参加した方々にも楽しんでいただける交流会になったのではないかと考えております。終了後の参加者アンケートでは、リトリート全体の内容に関する質問でおよそ9割の方に満足・やや満足の評価をいただきました。一方で、ポスターセッションの時間はもう少し長くしてほしい、自己紹介が口頭のみだと顔と名前が一致しにくい、などのご意見もいただいております。これらのご意見をもとに、来年度のリトリートをより充実したものにしていきたいと考えております。全体としては、私たち実行委員側でも良い手応えを感じており、盛況で大変充実した交流会となったと思います。アンケートで寄せられた感想を抜粋して掲載させていただきましたので、是非ご一読ください。

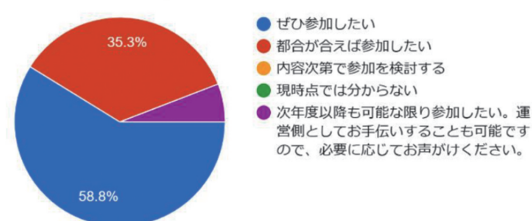
最後に、若手の会リトリート開催にあたり、多大な

る御支援をいただきました日本味と匂学会と運営委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、一緒にリトリートを盛り上げてくださった参加者の皆様に深く感謝いたします。今後もリトリートを継続的に開催してまいります。一人でも多くの若手正会員・学生会員の方のご参加をお待ちしております。また正会員の皆様におかれましては、本学会の裾野を広げるためにも、若手の会の情報を研究室所属の学生や若手研究員にご周知いただけましたら大変ありがたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

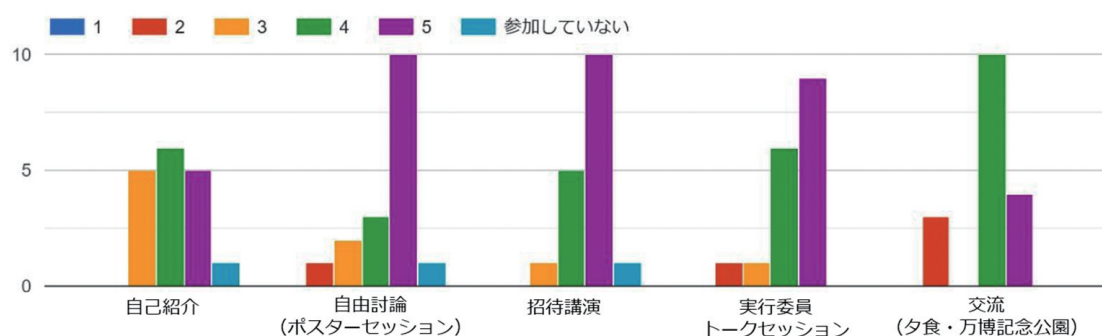
参加者の内訳



次回参加の希望



各セッションの満足度



参加者からの感想（抜粋）

- ・学会のポスター発表に向けていい練習となったので、学会の経験が少ない人は是非参加してほしい。
- ・知り合いも増やすことができ、非常に有意義でした。開催いただきありがとうございました。
- ・様々な研究者と密に会話ができるので、化学感覚研究の世界への入口として適した会だと思いました。
- ・私には本大会より有意義でした。ありがとうございます。
- ・とても勉強になりました。
- ・今年も有意義な会ありがとうございました！
- ・同分野・同世代の研究者との交流を目的に参加させていただきましたが、交流にとどまらず、企業の方と直接お話しする機会や共同研究のご提案をいただくなど、当初の目的を超えて多くの学びと収穫がありました。次回もぜひ参加したいと考えています。